

# 場内見学のポイント



見学範囲

保存修理工事中

無料音声ガイド（製糸場全体／西置繭所内）

場内に掲示されたQRコードからお手持ちのスマートフォン等にアプリをダウンロードしてご利用ください。

## 繰糸所

繭から生糸を作る作業場として1872年に建築。創業当初は、フランスから輸入された300釜の繰糸器が設置されました。現在は、1987年の操業停止まで使われたニッサン製の自動繰糸機が操業停止時の状態で保存されています。

ご自身のスマートフォン等で繰糸所内に掲示されたQRコードを読み込むと、繰糸所内に現存する繰糸機と同種機械による繰糸の様子をご覧いただけます。（無料、ただし通信料金は自己負担）

※入場制限をする場合があります

## 首長館（ブリュナ館）

1873年建築。製糸場の設立指導者として、政府に雇われたフランス人のボーラー・ブリュナと家族が暮らした建物。後には工女のための宿舎、学習や娯楽の場として使用されました。



## フランス式繰糸器

創業当初、フランスから輸入した繰糸器（復元機）を展示し、糸とりの実演を行っています。

▶ 実演の開催日および開催時間は、ホームページでご確認いただくか、お問い合わせください。

## 官営期の工女のくらし

工女の給料は能力給で、技術が優れていれば誰でも一等工女になれました。宿舎での食事や診療所にかかる医療費は無料で、寝具の貸し出しもありました。一日平均7時間45分の労働時間、日曜休日制が採用されるなど、明治初期の労働環境としては先進的であったといえます。

## 富岡製糸場の建造物

富岡製糸場は、コの字型に製造関連施設を配置し、その周りに宿舎などの生活関連施設が建てられました。

明治初期の建造物は、西洋と日本の伝統的な建築技術を併せた造りが特徴的です。柱や梁などの骨組みは木材を用い、壁を煉瓦で仕上げる西洋の木骨煉瓦造で建てられました。また、煉瓦を積み上げる際には日本の伝統的な建築材の漆喰を用い、屋根は日本瓦で葺いています。

## 西置繭所

1872年建築の繭倉庫。

建設当時、繭が年に一度しか収穫できなかつたため100mを超える大型の繭倉庫が2棟建てられました。

2020年5月に保存整備工事が完了し、現在は内部も見学できます。

※イベント開催時には見学できない場所があります  
※混雑時には入場制限をする場合があります。



ちょこっと！  
注目①



## ブリュナエンジン（復元機）

富岡製糸場の設立際に導入された蒸気機関の復元機です。

土曜日・日曜日・祝祭日（10:30～14:30）には、蒸気で動かしている様子を見ることができます。

## 社宅76

1919年建築の社宅。4戸で1棟の長屋形式で4家族が居住できました。

現在は、1955年～1965年頃の社宅の生活をイメージした展示、蚕の生態展示や体験（糸枠飾り作り・有料）を行う施設として活用しています。

※体験は予約制です  
※見学を制限する場合があります

ちょこっと！  
注目②



## 煉瓦の積み方と刻印

煉瓦は長い面（長手面）と短い面（小口面）を交互に並べた「フランス積み」で積まれています。

また、煉瓦にはどこで焼いたかが分かる印が残されています。



右と同じ印を見つけてみましょう！



「やまに」の印



## 越屋根（こしやね）

屋根の上にある小さな屋根のことで、繰糸所内の蒸気を逃がすための換気口としての役割がありました。

## たくさんのガラス窓

創業当初、日本にはまだ電灯がなかったため、自然光を取り入れる工夫がされました。

ちょこっと！  
注目③

Q: 記念碑の台座の形は？

A: 扇形

行啓の際に、従業員全員が桐の御紋の入った扇子を賜ったことに由来しています。

※入場制限をする場合があります

ちょこっと！  
注目④

ちょこっと！  
注目⑤